

# もりのかぜ Vol.11



森を感じる情報誌——Green Page Akita

緑の募金で  
ふせごう地球温暖化



公益社団法人 秋田県緑化推進委員会

〈CONTENTS〉特集●房住山 森の名手・名人を訪ねる／2 緑育REPORT／4 市町村の緑化推進委員会を訪ねて／6  
GREEN PAGE AKITA／8 Photographこの一枚／10 あきた・緑化の足跡／11 インフォメーション／12

房住山は古来からの信仰の山として知られ、江戸時代末期に建立された三十三観音と八つの番外の石仏が全て現存しています。参道沿いの天然秋田杉や広葉樹林の景観も素晴らしく、森林浴も楽しめるパワースポットです。

〈特集〉

## 房住山

ほうじゆうざん



石仏と豊かな森林に癒される山

# 房住山



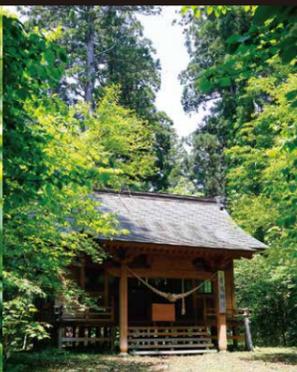
三種町上岩川と能代市二ツ井との境にまたがる房住山。奈良時代に天台宗・山岳仏教の開山に始まり、後に修験道寺院の山として栄えたといわれています。登山道沿いには一八六一年頃、地元の人々により建立された三十三観音が連なっています。標高409・4mと低山ながらアップダウンも多く、途中には「ババ落とし」といわれるロープ伝いに登る難所があり、修験道の山らしい様相を呈します。

樹齢二百年を超える天然秋田杉やブナ巨木、針葉樹・広葉樹の混交林が見られる森で、自然観察教育林に指定されているエリアがあります。登山適期は新緑・紅葉期を問わず、往時の信仰をしのびながら森林学習が体験できる山です。

山開き登山は毎年五月第四日曜日に開催され、町内外の参加者が三コースに分かれて登山を楽しみます。

## DATA

- ◆登山適期/4月下旬～11月上旬
- ◆交通/秋田道琴丘森岳ICから地方道37号を小新沢地区へ。休憩施設「ぼうじゅ館」から林道に入った先に**井戸下田コース**登山口がある(登り約1時間40分) **滝ノ上コース**は「ぼうじゅ館」よりもさらに1kmほど上小阿仁方向へ行くと登山口がある(登り約2時間20分) **金山コース**は金山林道から登るコースで、寺屋敷跡を経て山頂へ(登り約1時間30分)
- ◆問合せ/三種町役場商工観光交流課 TEL0185-85-4830



井戸下田コースにある房住神社は昔の寺房を復元し建立された



休憩室を兼ねた山頂展望台からは男鹿半島、森吉山、白神山などの眺望を楽しめる



広葉樹林内に真っすぐにそびえ立つ秋田杉巨木



木漏れ日の差し気持ちの良い林内。時折ブナや秋田杉の巨木に出くわす

二等三角点の所に立つ番外二の阿弥陀如来

# 「曲げわっぱは」はわが子 想いを込めたものづくり

## 曲げわっぱ職人

吉原 重美氏

### 「森の名手・名人百人」の認定・顕彰について

公益社団法人国土緑化推進機構では、平成十四年度から、新たな国土緑化運動の一環として、森を守り、育て、その恵みを活かして持続的に循環していくことの重要性を社会に訴えとともに、国民の森づくりへの参画を促す運動として「もりのくに」につぼみ運動を展開しており、すぐれた技術を極め、他の技術・技能者等の模範となつている達人を、「森の名手・名人」として認定・顕彰してきました。

### 木と関わる仕事をしたい

吉原さんが、職業として「木と関わる」ことを意識したのは中学生の時です。たまたま美術の授業で作った彫刻作品が、文化祭で金賞を取ったのです。夏休み中かけて制作に熱中しただけに嬉しくて、それがきっかけで最初は彫刻師になりたいと思いましたが。

中学卒業後は、大館職業訓練校に進み、木工の基礎を学びました。そして彫刻の要素もある建具職人の道を選びました。約十二年、建具職人として、木や道具

に関する知識と経験を積み重ねたことが後年、吉原さんの大きな財産となりました。大館工芸社に入社したのは昭和六十年です。やむを得ない理由での転職でしたが、大好きな木材に関わる仕事を続けたいという気持ちが大きかったそうです。

### 一流の曲げわっぱ職人に

入社後は、曲げわっぱの各工程を数年ずつかけて習得していきました。自分の仕事を上の人から認められると、一つ難易度の高いものへと挑戦できます。

どんどん技術レベルの高い仕事に取り組み、自分なりの工夫を加えてよりよい製品を生み出していくのが楽しくて仕方ありませんでした。

その結果、現在主に取り組んでいる隅丸（おひつ）の底と側面の接合部が滑らかな曲線を描いているものや、注ぎ口や取っ手のついた酒器など、高度な技術を要する製品は、吉原さんでなければ作れないとまで言われる職人になりました。

### 想いを込めたものづくり

曲げわっぱの工程は四十にも及ぶといいますが、大館工芸社では各工程を分業化してこなしていますが、吉原さんは最初の木取りから仕上げまで、ほとんどの

### 伝統工芸品「大館曲げわっぱ」

国の伝統工芸品にも指定されている大館曲げわっぱ。秋田杉の細やかな柱目の美しさや、天然素材の優れた特性が評価され古くから親しまれていますが、近年は弁当箱が全国的な人気を集めています。

そんな曲げわっぱの職人として、平成三十年度の「森の名手・名人」に選定されたのが吉原重美さんです。

工程を自分の手で行っています。

だからこそ、心を込めて作りましたと自信をもって人に言えるし、その気持ちがお客さんに伝わり感動を与えることができた。何より嬉しいのだそうです。材料選びから丹念に製作してきた、わが子のような製品だから、使い込んで年数の経ったものでも修理してあげたいと言います。そんな先のことまで考えて、一つ一つ丁寧にものづくりに取り組んでいるのです。

### 大切な二つの心

曲げわっぱづくりで大切なことは、一つは木材に関する深い理解と知識が必要なこと。木の表裏を間違えただけでも材料を無駄にすることになります。

もう一つ大切なのは道具です。例えば、吉原さんは自分のかんなを作品ごとにすべて手作りしています。自分で刃を研ぎ、刃の出具合を調整します。それによって、普通は一方の方向からしか削れない逆目（木目に逆らった状態）でも、両側から削ることができるそうです。

ただ、刃物の研ぎ方、使い方、直し方といった知識は、なかなか現場で後進に教えるのが難しいそうです。吉原さんの場合は、訓練校や建具職人時代にこうした基礎をきちんと学んできましたが、それ



高度な技術を要する隅丸のおひつ。かんなは曲げわっぱのサイズごとに吉原さんが作ったもの

をどう伝えるかが課題だということ

です。表面的な技術は教えられても、自分でものづくりの楽しさを見つけて進んでいく気持ちを持たなければよい製品は生み出せない——それを若い人たちに知ってほしいと吉原さんは語ります。



愛情込めて曲げわっぱを製作する吉原さん。桜皮で縫い留められた側が曲げわっぱの正面となる

### 伝統を次世代につなぐために

曲げわっぱの材料は、昔から成長が遅く目の細かい天然秋田杉でした。しかしその資源が枯渇し、現在では人工林スギを使わざるを得なくなっています。そこで、大館市は大館曲げわっぱ協同組合などの協力を得て「大館曲げわっぱ百五十年の森育成事業」を進めています。

人工林スギでも樹齢百五十年程度であれば、天然スギに匹敵する製品が作れることから森を育み、曲げわっぱを次世代に継承していくという取り組みがあります。

取材当日、ちょうどこの事業が開催されており、早口、山瀬の両小学校児童も参加して、下刈や森林教室が開催されました。大館工芸社でも多くの方が参加さ

れていました。

このほか同社では、大館市内の全小学校で、曲げわっぱの実演も実施していて、次世代の子どもたちに、郷土が誇る伝統工芸を伝える努力をしています。

もちろん、吉原さんも積極的に参加しているとのこと。



大館曲げわっぱ150年の森育成事業



よしわら じげみ 吉原 重美さん

昭和32年、大館市比内町生まれ。大館職業訓練学校卒業後、建具職人を経て昭和60年、大館工芸社に入社。平成10年、日本の伝統工芸士に認定。

株式会社 大館工芸社  
〒017-0012 大館市釈迦内字家後29番地15  
TEL: 0186-48-7700 FAX: 0186-48-7711



## 秋田県立二ツ井高校

美しい自然に恵まれた秋田県では、古くから学校林等を中心とした森林環境教育が盛んです。緑にふれることによって、子どもたちの環境への理解を深めるとともに、豊かな人間性を育む……そんなすばらしい教育活動の中から、今回は秋田県立二ツ井高校を紹介します。

平成三十年度全日本学校関連緑化コンクール(学校林等活動の部)で、秋田県立二ツ井高等学校が準特選(国土緑化推進機構会長賞)を受賞しました。全校生徒百名に満たない小規模校が、全国で高い評価を得たのはなぜなのか、その秘密を探ってみました。

### 二高白神プロジェクトの誕生

秋田県立二ツ井高校は、昭和三十九年(一九六四)に創立され、今年五十五周年を迎えます。二ツ井町が能代市に合併されるまでは、山本郡内唯一の高校で、地域に親しまれてきました。

二ツ井高校では、同校が秋田県側でも世界遺産白神山地に近いことから、その特色を生かしたユニークな学校づくり

二年生は、八峰町の二ツ森で白神山地には本来生育していなかったオオバコを駆除します。この活動も継続して行われ、「オオバコバスター」と名付けて熱心に取り組んでいます。三年生は、同じく八峰町の御所の台を散策です。ただ今年度からは、数の減った一年生と協力して、一緒に植樹活動に取り組むことになっています。



登山者の靴裏で運ばれた外来種「オオバコ」を大量に駆除



御所の台散策。地元の自然遺産を大切に育む心



コミュニケーション能力も養う白神の魅力伝えるレポート発表会

審査員コメントとともに「白神フォトコンテスト」各賞を掲示

ユニークな「白神検定試験」の一部

問	問題
①	植物の名称を語群Dから、その写真を写真群Eから選んで番号で答えなさい。 は葉緑素をもたない腐生植物で透明感のある銀白色が特徴。写真【56】 白神山地に数多く見られ、樹皮は灰白色できめが細かく、よく地衣類などが着いて独特の模様のある落葉高木。写真【58】
②	秋田県の県の木として知られ、葉は基部が枝に密着して、先は針状に尖り、枝全体としては針を並べたようになる常緑針葉樹。写真【60】
③	生息し夜行性で、昼間は樹洞や岩の割れ目・洞窟などで休み、果実がある時期は昼間ありふれた実が大好物である。体長120-180センチメートル。写真【64】
④	亜高山帯にかけての落葉広葉樹林などに生息し、雄雌ともに短い角をもちこれを武器とする。写真【66】

秋には二度目の招へい講座の開催、白神プロジェクトフォトコンテストが行われ、入賞作品は「二高祭」で展示されます。そして、年末には全校で「二高白神検定試験」が実施されます。白神山地に関する知識と理解が試されるもので、昨年度の合格率が約十五%と、なかなかの難関。フィールドワークとレポート作成までは他校でも聞きますが、こうした検定試験まで実施するのは全国的にも珍しいのではないのでしょうか。

### ユニークな「白神検定試験」

### 知識を深め、白神を体験

具体的な活動を見てみましょう。例年、まず六月に招へい講座があります。広く自然に関わる有識者を招いて講義を聴き、

に取り組もうと考えました。そこで、白神山地の体験学習を中心としたさまざまな活動が検討され、平成十九年度から実施されました。そして、平成二十一年度からは「二高白神プロジェクト」と名称を変え、現在に至る活動に続いていきます。

プロジェクトの目標は、白神山地の魅力を広く外部に伝えようというものです。生徒が白神の魅力を感じ、知識を得、地域に深い愛情を抱く。そして一人ひとりが「白神宣伝大使」として情報発信者となり、表現力やコミュニケーション能力を磨くことを目指しているのです。



招へい講座で熱心にメモを取ったり、質問をする生徒たち



岳岳で自然観察(写真上)、植樹ではNPO法人など地域団体の協力がある。(写真左)



また、活動の締めくくりとして生徒たちへのアンケートを実施し、評価や課題の洗い出しに活用しています。

### 生徒の反応

二ツ井高校の生徒は、地元の旧二ツ井町や藤里町の出身者が少なく、潟上市、北秋田市、大館市などから通う生徒の方が多くなっています。

そのため、このプロジェクトで白神の自然に初めて触れる生徒も少なくありません。生徒たちは、新鮮な驚きと興味をもつ

### 活動は今後も継続

て、この活動に取り組むようになるそうです。実際に自然や林業に興味を抱き、県の林業大学校に進んだ後、林業会社に就職したという生徒もいるそうです。実は二ツ井高校は、生徒数の減少によって令和三年から能代高校の定時制課程(昼間部)として再出発することが決まっています。しかし校名が消えてもこの「白神プロジェクト」は継続していくそうです。豊かな自然に育まれた郷土への愛と二ツ井高校の伝統は、消えることなく受け継がれていくのです。

白神山地への知識を深めます。

同月に活動の中心をなすフィールドワークを行い、実施後はレポートを作成します(三十年度は悪天候のため九月に順延)。なお、レポートは後日、各学年ごとに

発表会を実施します。

フィールドワークでは、一年生は、藤里町の山林でブナやスギの植林体験をするほか、白神山地世界遺産センター藤里館の見学、岳岳の自然観察を行います。

SERIES

# 市町村の 緑化推進委員会 を訪ねて

## 第5回 鹿角市緑化推進委員会

県内各市町村の緑化推進委員会は、(公社)秋田県緑化推進委員会の正会員として、ともに協力して地域の皆さんに緑の募金をお願いし、それをもとに生活環境の緑化、森林ボランティア及び緑の少年団等の育成等に取り組んでいます。シリーズでその活動をご紹介します。

### 自然との共生を目指す

鹿角市は秋田県の北東部に位置し、和田八幡平国立公園を擁する自然豊かな地として知られてきました。

その一方で、尾去沢をはじめとする多くの鉱山は、地元に繁栄をもたらしましたが、森林にダメージを与えてきたという歴史もあります。

そのため、地域の人たちには緑を大切にすする心が伝統的に根付いています。

鹿角市緑化推進委員会では、そうした市民のサポートや、なお一層の啓蒙活動のため、積極的な活動を続けています。

### 鹿角市植樹祭

同委員会にとって、最大のイベントが毎年五月に開催する「鹿角市植樹祭」です。鹿角市、米代東部森林管理署とも

に、鹿角市緑化推進委員会が主催者として大きな役割を果たし、同時に街頭募金活動も実施しています。

植樹会場は、世界遺産登録を目指している国の特別史跡「大湯環状列石(ストーンサークル)」の二画です。

### 小・中学生の代表が募金活動

取材当日(五月二十一日)は雨模様の中、約二百人の方が集まりました。環境活動に関わる各種団体、企業、一般市民に混じって、特に目を引くのは地元の小・中学生です。

鹿角市内の小・中学校の代表が参加して、開会式会場となる大湯ストーンサークル館では、緑の募金活動にも協力してくれました。集まった参加者たちに元気な声で呼びかけ、募金をしてくれた方々に緑の羽根を次々と手渡していました。

会場では鹿角市のイメージキャラクター「たんぼ小町ちゃん」が愛嬌をふりまき、子どもたちと楽しそうに記念写真に収まっていました。

### 縄文の景観を再現しよう

同地での開催はこれで十三回目となります。この植樹は、遺跡から出土した花粉を分析し、縄文時代当時の植生を再現しようとする整備計画の一環です。



緑の募金活動が行われた大湯ストーンサークル館



鹿角市長も募金協力



緑の募金活動に「たんぼ小町ちゃん」も協力



雨にもかかわらず大勢の参加者が植樹を行った



参加者に配布したブルーベリーの苗は大好評



植樹地前に「天皇陛下御即位」記念植樹の標柱が立てられた



小・中学生も頑張った



尾去沢地区の自治会による緑化活動

### 地域に根付く緑化活動

このほか、鹿角市緑化推進委員会では自治会など地域の人たちの緑化活動にも苗木の提供などの支援をしています。

尾去沢地区の西道口下モ平(さいどうぐちしもたい)生産森林組合は、地域で毎年植樹会を行い、ヤマモミジ、ソメイヨシノ、アオダモなどを植えています。この活動には、尾去沢小学校の児童も参加しています。

また、今年と同じ地区の三ツ矢沢自治会がツツジやアジサイの植栽を実施するなど、鹿角市では自治会が手を挙げて植樹を行う例が多いのです。

他の市町村では、自治会が植樹をし、それを維持していく力を失いつつある中、鹿角市ではなお、意欲的に植樹に取り組む自治会がきちんと存在しているのは、歴史的経緯による緑化意識の高さだけでなく、地域社会が健全に機能している表れと言えます。

# いまむかし 今昔の文化に触れ、ブナの森で森林浴

日本が世界に誇るマンガ文化、そして古の彫り物大工たちが生み出した  
力士像彫刻の美。今と昔の文化を訪ね、ブナの森で森林浴



アクセス▶秋田方面からは湯沢横手道路・十文字インターを降りて右折後、2km先の信号を左折。国道342号を進むと横手市増田、その先が東成瀬村。

## 横手市 増田 「蔵とりんごの里で文化に触れる」

### マンガ文化をとことん楽しもう



シンボルツリーのある常設展示室



マンガの蔵展示室



マンガウォール

**横手市増田まんが美術館**  
令和元年5月リニューアルオープンしたまんが美術館。以前は複合施設内に設けられていましたが全館が美術館となったため10倍以上の拡張となり、作家約180名の原画22万点を収蔵・保存する大規模施設に生まれ変わりました。「まんがの蔵展示室」ではデジタルアーカイブ化した原画をタッチパネルで筆の跡など詳細まで見ることができます。このほか74名の原画が見られる「常設展示室」、「ミュージアムショップ」やマンガとコラボしたメニューのある「カフェ」などがあります。どの世代にとってもなつかしいマンガに出会えるので、子供から大人まで楽しめる施設です。

横手市増田町増田市新町285  
tel.0182-45-5569  
10:00~18:00(最終入館17:30)  
第3火曜日定休(祝日の場合は翌日)  
料金/無料 ※企画展は有料

### 「蔵のまち」増田・探訪

まんが美術館の近くには、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている地区があります。横手市の南東部に位置する増田町は、江戸時代以降、人や物資の往来で大いににぎわいを見せ、県内有数の商業地域となりました。現在の中七日町通りには、当時の繁栄を今に伝える伝統的な町並みや家屋が多く残っています。観光物産センター蔵の駅は、かつて金物商を営んだ家で、現在は周辺の観光案内のほか、地元の特産品が販売されており、「内蔵」も無料で見学することができます。蔵のまち探訪前に立ち寄ってみましょう。



**秋田の力士像**  
**『力士さん見て歩き』**  
渡辺 修 著 四六判 220頁 1620円(税込)  
重い屋根を支えながら、お寺や神社を護るユニークな「力士さん」。日本一の数を誇る秋田の力士さんを徹底ガイド。身近にしながら、これまで注目されていなかった秋田のお宝を再発見してみよう！

『ふるさとの話 水に沈む百宅集落』  
鳥海山麓の小さな集落「百宅(ももやけ)」の自然と暮らしを描く三浦繁忠写真集  
変形判 カラー 214頁 2160円(税込)

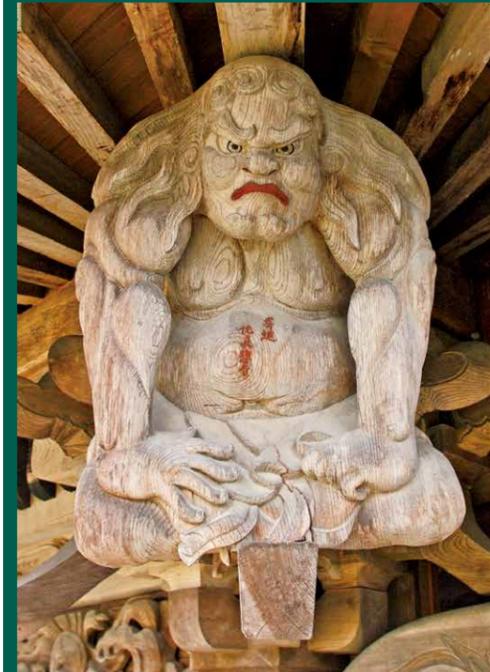
**秋田文化出版**  
〒010-0942 秋田市川尻大川町2-8  
TEL 018-864-3322  
FAX 018-864-3323  
E-mail akitabunka@yahoo.co.jp

自費出版のご相談承ります

## 東成瀬村

## 【水と緑の里で文化に触れ、森林浴を楽しむ】

### 目を見張る芸術性・力士像は必見



天神社は明治期に別々の神社を移築して本殿、拝殿とした為、力士像は8体あり、趣きの違いがある。写真は本殿の力士像



天神社・拝殿の力士像



平良神社・力士像



八坂神社の建物は総檜造り



小振りだが見応えのある水神社・力士像



肴沢神社の力士像の中で唯一目が欠落していないもの

### 力士像・ここに注目

力士像をよくみると寄進者の名前が腹部や腕、手の甲、膝などに彫られているものがあります。寄進者の存在は力士像一体の制作費が大きかったことを物語っているのです。

### ちょっとひと休み

お食事は手打ちそば「やまと」や夢・なるせ直売所のトマト・バーガー。温泉は岩風呂や岩盤浴が楽しめるなるせ温泉東仙歩、pH9.8の強アルカリ性と「美肌の湯」のやまゆり温泉ホテルプランがおすすめ。

## ブナ林のグリーンシャワーでリフレッシュ

国道397号線を東成瀬村から岩手県奥州市へ向かうと県境に大森山トンネルがあります。その手前があるのが憩いの森として整備されたブナを主体とする天然林の森「すずこやの森」。この一帯は雄物川源流部の水源になっていて、多様な生物とブナの若木、その上方に母樹となる樹齢200年ほどのブナ大木が観察できます。育樹活動や環境教育、自然観察イベントなどに利用されています。国道397号線はブナ林が続くルートで焼石連峰ピーチラインとも呼ばれます。



大森山トンネル(左)付近と「すずこやの森」案内板(右)



ブナ林に生えるギンリョウソウ

ブナの森の中をうねるように走る焼石連峰ピーチライン(ピーチとは英語でブナの意)。写真中央付近、道路が途切れているように見える所が大森山トンネル



グリーンシャワーが降り注ぐ「すずこやの森」ブナ林内

## 焼石連峰ピーチライン

あきた  
緑化の足跡



平成5年5月19日  
第44回秋田県植樹祭開催地 — 真人公園《現横手市》

旧増田町真人公園（現横手市）に於いて、平成5年5月に第44回秋田県植樹祭が開催されました。

参加者は佐々木喜久治知事、石山米男増田町長他、1,300名です。植樹祭のメインテーマは「育てよう 未来を創る 希望の苗木」。

式典会場は増田町総合体育館。キジの記念放鳥が行われました。

植樹木はソメイヨシノ300本、ヒノデツツジ500本。植栽地は真人公園として管理されており、生育状況は良好です。記念碑「緑と花開く町」があります。

真人公園は大正天皇即位記念事業として造園された公園で、設計者は千秋公園、横手公園と同じ日本人初の公園デザイナー長岡安平。池に浮かぶ中島と水面に映える真人山が見事で、四季折々に美しい佇まいを見せますが、2000本の桜が咲き揃う季節は圧巻です。平成2年に「日本のさくら名所百選」に選定された名園です。

桜まつり中には「本家名物たらいごぎ競争」が、夏には「全日本元祖たらいごぎ選手権大会」が開かれ賑わいます。

また、増田町は戦後第1作目の映画「そよかぜ」のロケ地。公園内には主演の並木路子が歌った挿入歌「リンゴの唄」を記念した「リンゴの唄の碑」や「並木路子先生顕彰碑」が立っています。10月中旬には「増田りんごまつり」が開催され、りんごの即売、「リンゴの唄コンクール」、「ミスりんごコンテスト」などが行われます。

植樹の足跡を辿りながら四季折々美しい樹木を楽しみ、少し足をのばして「蔵のまち」増田を散歩されてはいかがでしょうか。



植樹記念碑の表面には佐々木喜久治知事、裏面には石山米男町長の名が刻まれている

Photograph  
この一枚

東成瀬村の大柳沼自然公園付近、道路脇に立つ「マダ」の木は、樹齢二百年、高さ二十三・八m、幹周七・六m。かつては周辺に同様の大木があったということですが、野焼で失われ、この木だけが残っています。「マダ」や「マンダ」はシナノキの別名で、東北・北海道に多く自生する落葉高木。釈迦の入仏伝説があり、神聖な木とされています。樹皮は繊維質が強靱で水に強い特性があり、縄や布の原料として古くから利用されてきました。山形県鶴岡市関川集落に受け継がれる「しな織」は沖繩の「芭蕉布」、静岡の「くず布」と並ぶ日本三大古織織のことで、起源は二百年前といわれています。

ここ東成瀬村でも昔の農村の暮らしに生かされてきました。マダの樹皮を剥ぎ、繊維にするために灰汁で煮て水でもみ洗いして薄くはがし乾燥させるなどして、ケラやミノ、縄類、馬の道具などを作ったり、良質の皮は細く裂いて撚りをかけ、畳ムシロの縦糸などに使用されたようです（参考資料／東成瀬村郷土誌）。ビニールなどの簡単に材料にできるものが手に入らなかった時代に、先人は山の恵みを工夫して利用してきたのです。一本の木をみる時、木と私達の生活史もみえてきます。

白滝のマダの木  
【雄勝郡東成瀬村】



寛ぎの湯

忘・新年会 各種ご宴会 承っております。

憩いの時を 心尽しの宿で。

みちのくの小京都角館

四季の彩り

角館温泉 かようかん

花葉館

◆施設/宿泊/宴会場/レストラン/温泉/日帰り入浴/グラウンド・ゴルフ場 完備

TEL0187-55-5888 FAX0187-53-3337

ご予約/お問合せは 仙北市角館町西長野古米沢30-19



もりのかぜ・ねっと

緑の募金大使「森っち」

# INFORMATION



緑の募金  
シンボルマーク

## 県緑化推進委員会の主な事業

**「緑の募金」運動の推進** 緑の募金運動を広く展開し、寄せられた善意を主な原資として次のような事業を推進しています。

- **地域緑化活動の推進**  
市町村等が行う緑化イベントへの支援
- **緑化思想の啓発**  
チラシ、看板、キャンペーン、機関誌発行、緑化関係表彰
- **県民参加の森づくり推進**  
森林祭等開催、市民グループ森づくり活動支援
- **森林ボランティア育成**  
ボランティア活動支援、リーダー養成
- **緑の少年団等育成**  
交流会、学校緑化コンクール、学校緑化活動支援、子供木づかい体験
- **名木・古木等の保護**  
診断、調査の支援
- **国土緑化運動**  
国土緑化推進機構連携事業、緑と水の森林ファンド活用事業

※秋田県緑化推進委員会は、国土緑化推進機構・各都道府県緑化推進委員会と連携し、緑の募金による東日本大震災・熊本地震被災地のみどりの再生支援を行っています。

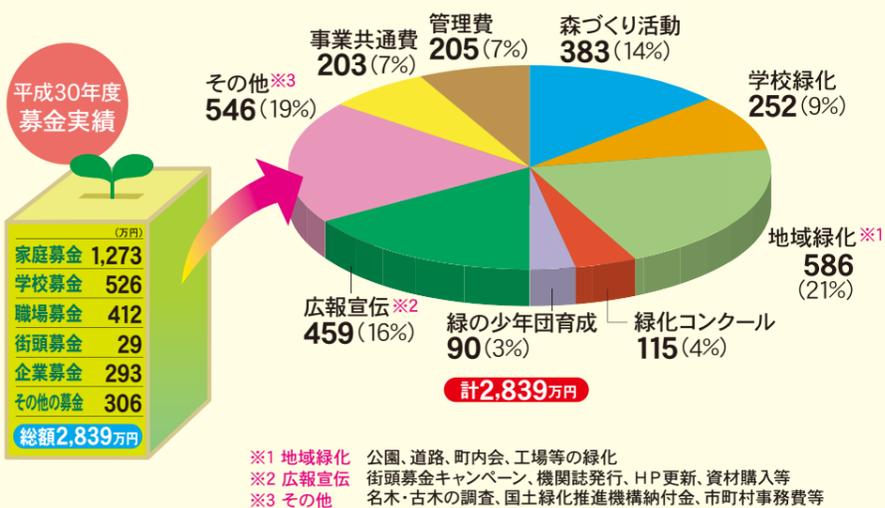
**ダイドードリンコ(株)では、**  
環境貢献として飲料自動販売機による「緑の募金」活動に協力しております。

**「緑の募金自販機設置」のお願い**  
新規設置の自動販売機が対象です。設置、ご紹介の協力をお願いします。

目印は  
このパネル!!  
この自動販売機の  
収益金の一部は、  
「緑の募金」に  
寄付されます。



## 緑の募金は、このように活用されました!



## TOPICS

### プラザクリプトンで令和最初の「緑の交流集会」を開催!!

▼野鳥の森散策



「緑の交流集会」が初めて開催されたのは平成9年の岩城少年自然の家。今年はそのから数えること22回目、秋田県森林学習交流館・プラザクリプトンが会場となったのは5年ぶり、4団体から33名の児童が参加して行われました。

夏休みに入ってから7月24日(水)～25日(木)、時期的に梅雨明けするかどうか微妙な頃で天候が大変気掛かりでしたが、2日間とも好天に恵まれ予定どおりの日程で無事終えることができました。

初日の活動は、県立中央公園のフィールドアスレチックから始まり

した。日本最大級のポイント数を誇る広い園内には80基余りの遊具が設置されています。一番人気の遊具・高さ30mのアスレタワーに辿り着くには、吊り橋のようにグラグラ揺れるアスレブリッジを通らなければなりません、大人の心配をよそに全員がこの難所をクリアしました。

夕食後のサプライズ手品では、タネを明かそうとする子供たちとそう簡単にはと涼しげに力を入れる森の案内人・大石さん、双方の熱気が会場に溢れました。その勢いのままクラフト作りを行い1日目は終了。

2日目は、ラジオ体操、朝食を終えてから、3択形式のクイズで自然



や森の学習をしました。全12問を正解したのは1名だけ、3年生の男子でした。

引き続き、班ごとに分かれてアカゲラのねぐら用巣箱作り挑戦し、出来上がった巣箱を近くの野鳥の森に持って行き、みんなで協力して木に掛けました。

体験活動や共同生活などを通じて交流を図ることもこの行事の目的のひとつですが、今後またどこかで再会した時に、令和最初の「緑の交流集会」の思い出がお互いを繋ぐ呼び水になってくれれば、と思います。



森のクラフト作り

### 当委員会の佐藤重芳理事長が旭日中綬章を受章



令和元年春の叙勲で、本会の佐藤理事長が栄える旭日中綬章を受章しました。秋田県森林組合連合会 代表理事会長、全国森林組合連合会 代表理事会長などとして、県そして国の林業振興に多大な貢献をされ、とりわけ、林業界の長年の悲願であった森林環境税・森林環境譲与税の創設にあたっては、その先頭に立って奮闘されました。

その傍ら、平成24年6月からは本会理事長として緑化思想の啓蒙普及にも尽力され、現在に至っております。

ここに長年にわたる御労苦に敬意を表するとともに、今後ますますの御活躍、御健勝をお祈りします。

### 令和元年の動き

- 3月15日(金) ● 秋田市で「(公社)秋田県緑化推進委員会第48回通常総会」開催
- 3月31日(日) ● 県児童会館リニューアルオープンに合わせて募金活動
- 4月20日(土) ● 秋田駅周辺で「緑の募金街頭キャンペーン」を開催
  - 農林中央金庫秋田支店が、募金や緑化活動の支援グッズとして「花の種」寄贈
- 5月21日(火) ● 佐藤重芳理事長が旭日中綬章を受章
- 6月2日(日) ● 愛知県森林公園(尾張旭市)で第70回全国植樹祭
- 6月8日(土) ● 「第41回森林の市 in AKITA」で募金活動(東北森林管理局構内)
- 6月8日(土)～9日(日) ● 「あきた白神まつり2019」で募金活動(エリアなかいち)
- 6月19日(水) ● 緑化関係助成事業審査会(森林環境会館)
- 7月7日(日) ● 北秋田市北欧の杜公園で「2019あきた水と緑の森林祭」を開催
- 7月24日(水)～25日(木) ● 秋田市河辺のプラザクリプトンで「秋田県緑の交流集会」を開催
- 9月7日(土)～8日(日) ● 「第39回全国豊かな海づくり大会」で募金活動(道の駅あきた港)
- 9月12日(木) ● 秋田市河辺岩見ほかで「中通小学校林業体験学習」を開催
- 10月下旬 ● 美郷町立千畑小学校で学校環境緑化モデル事業完成式典
- 12月15日(日) ● 沖縄県平和創造の森公園(糸満市)で第43回全国育樹祭

## もりのかぜ

Vol.11

編集・発行

令和元年9月10日(火)発行

公益社団法人 秋田県緑化推進委員会  
〒010-0941 秋田市川尻町字大川尻170-169 森林環境会館内  
TEL018-883-0815 FAX018-883-0816  
[Eメール] akiryoku@estate.ocn.ne.jp  
URL http://akiryoku.ec-net.jp/

制作

有限会社 バレア

〒010-0942 秋田市川尻大川町2-8  
TEL018-896-7225 FAX018-883-0004

### 編集後記

東北北部の今年の梅雨明けは平年より3日遅い7月31日だったが、雨の日は少なかったような気がして調べてみたら、秋田市では7月の降水量が平年の5割に届かない88.5mm。雄勝地域の友人が「これから出穂期なのに水足りなくて困った」と言っていたのも頷ける。また横手市では、猛暑日の連続日数記録を更新したとかで、巷の挨拶はどこでも「今日も暑いっすな」。

秋田、日本に限らず、世界各地がメリハリの効いた気象状況下にあるが、これが地球規模で劣悪常態化してくると、食料の生産供給能力そのものが維持できなくなるらしい。もしそんなことになったら、昨今の国(あるいは地域)どうしの経済戦争どころではない世界の一大事になるだろうなあ。とにかく食べ物が無いということは人の生死に直結するのだから。(Y.I)

## みんなが森林の応援団!! 緑の募金

への協力と森林づくりへの参加をおねがいします。  
■緑の募金は、地域の環境緑化活動や森づくり活動への支援に使われます。



募金期間

春季 4月10日～5月31日

秋季 9月1日～10月31日

実施主体 / (公社) 秋田県緑化推進委員会  
市町村・市町村緑化推進委員会

緑の募金でふせごう地球温暖化



だから、安心です!!

JAS製材品は、品質・性能が明確!!

# JASは 安心の証明マーク

木造建築物には、  
**JAS製材品**を使いましょう。

JAS製材品は、品質・性能を明らかにして出荷された製材品です。この製品は、「日本農林規格等に関する法律」(JAS法)に基づき認証されたJAS工場で品質管理及び格付のための検査・試験を行い消費者の皆様を提供されており、安心してお使いいただけます。

お問い合わせは

**秋田県木材産業協同組合連合会**

〒010-0003 秋田県秋田市東通二丁目7-35  
TEL:018-837-8091/FAX:018-837-8093  
<http://a-mokuren.jp>